

平成29年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文責・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己 (静岡県立科学技術高校教諭)

平成29年度全国高校総体(インターハイ)バスケットボール競技静岡県予選は5月27日に島田高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、28日に行われるブロック決勝を勝ち抜いた4校による決勝リーグが6月3日、4日に袋井市・エコパアリーナで行われる。上位2校が7月27日から福島県・県営あづま総合体育館で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月17日、18日に三重県・A F G鈴鹿体育館、四日市中央緑地体育館で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。2月に行われた東海新人大会では「激戦区・東海」の中で4位以上に男女合わせて3チームが入り、静岡県高校バスケのレベルの高さを証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、選手たちの熱い戦いに注目したい。

【男子】

1月の県新人を勝ち抜き東海新人大会に出場した飛龍、浜松学院、浜松開誠館に、全国大会常連の藤枝明誠、沼津中央を加えた5強の争いになると思われるが、その中でも優勝候補筆頭は東海新人準優勝の**飛龍**だろう。東海新人決勝ではマリ人留学生を擁する中部大第一(愛知)相手に最後の最後まで食い下がり、24年ぶりの優勝は逃したもののこれからの飛躍が大いに期待される戦いを演じた。スコアラーの**伊東潤司**はコート上を素早く駆け回るスピードプレーが持ち味。3Pシュートの成功率も圧巻で、東海新人準決勝・四日市工業(三重)戦で5本、さらに決勝では8本を決めるなどプレッシャーのかかる試合ほど燃える闘志あふれるプレーヤー。3月の少年男子台湾遠征でも主将を務め、チーム全体を見渡せる広い視野をも培った。インサイドでは**関屋心**が得点を重ねる。鋭いドライブからのレイアップシュートが魅力の選手で県新人決勝では31点、東海新人準決勝は34点を取るなどオフェンシブなバスケットを信条とするチームの矢板骨を支えている。まだ2年生で、時折見受けられる好不調の波をなくしていけばこれからの静岡県を代表する選手になるであろう。ほかにも県新人では十分に実力を発揮できなかったがシュート力がチームの勝敗を分けるキーマンの**松下裕汰**、当たり負けしない強いフィジカルを持った**金井星也**、試合の流れを引き寄せるような勝負強い3Pシュートを放つシックスマンの**山村祥太郎**、リバウンドシュートが得意な**杉山裕介**、そして中国人留学生、193cmの**張述凱**と191cmの新生入生・**リュウヤハオ**などスター選手を多数抱える。スクリーンや速いパス回しを駆使した多彩なオフェンスで2年ぶりの優勝、そして全国まで上り詰めるためにもまずはブロック決勝で対戦が予想される東部決勝の再現となる・沼津中央戦を確実にクリアしたい。

飛龍を迫る一番手は県新人準優勝の**浜松学院**。主力は昨年度のインターハイ、ウィンターカップでも大活躍し観客をも魅了した**ダシルバヒサシ**と**石川晴道**。ダシルバは1 on 1から相手を振り切ったのレイアップ、ピックアンドロール、そして随所に見せる華麗なプレー、石川はきれいな軌道を描く3 Pやドライブで共に攻守の要としてチームを牽引する。石川と同じく外角シュートとドライブで得点を重ねる**谷口夏樹**や積極的にリバウンドに絡んでいく**葉山大誠**、そしてこのタレントたちをまとめていくのがキャプテンの**岡村泰知**。前主将・伊藤から受け継いだ浜学伝統のキャプテンシーを試合中にも発揮、泥臭いプレーにも汗を流しながらチームを支えている。オフェンスばかりが目されるチームではあるが粘り強いディフェンスも特長のチーム。2年連続の全国総体出場はもちろん、19年ぶりそして浜松学院（平成23年度に興誠から校名変更）としての初の県総体制覇を狙う。

県新人3位、そして今大会第3シードとして臨む**浜松開誠館**も優勝候補の一角である。マンツーマン、ゾーンプレスなどチェンジングディフェンスが魅力のチームで、フォーメーションも多彩。まさに「鍛えられた」感のあるチームである。**田中勇樹**は3月のU-18東海エンデバーにも招集された逸材。非凡なセンスをもち、ドライブやミドルレンジでのシュートを得意としている。**神田誠仁**は昨年の岩手国体にも出場した経験を十分に生かし、初の東海新人出場を決めた県新人3位決定戦・藤枝明誠戦では3 P 6本を含む34得点。リングに吸い込まれていくようなシュートは創部6年目の浜松開誠館を初の全国総体、そして一気に県制覇まで導く可能性を十分に秘めたものである。ドリブルの突破力に秀でる主将・**伴拓実**、オフェンスリバウンドを中心に東海新人・美濃加茂（岐阜）戦では17得点を記録した**川邊隆景**、ドライブの切れ味抜群の**松本うみ**の活躍にも注目したい。

東海新人大会出場を逃した藤枝明誠、沼津中央も雪辱を期す。**藤枝明誠**は県新人3位決定戦で浜松開誠館相手に怒涛の追い上げを見せたが2点差で涙を呑んだ。リバウンドから瞬時にプレーを切り出す速攻バスケットが特色のチームで、主将・**高木卓也**（島田初倉中卒）は藤枝明誠が2006年から全国大会に常時出場するようになってから初の県内出身主将。アウトサイドからのシュート力に長け、力強いオフェンスリバウンドも魅力。司令塔の**中村和磨**はスピードを生かしたプレーで3 Pや1 on 1に自分の境地を見出す。高木と共に3月の台湾遠征にも選ばれた**中坪崇斗**、**浅見晴**、そしてゴール下には200cmの中国人留学生・**張新鋒**が待ち構える。さらにはこの春、身長206cmオマール・ディディアン・ティアヌ、197cm**セコウ・ドゴール**という2人のマリ人留学生を加え、ゴール下に一段と厚みを増した。特にオマールは中部地区予選でもその類まれなジャンプ力と器用なボールハンドリングを披露し観衆を驚かせた。外国人留学生のベンチ入りは2人まで、出場はオンザコートワンと規定されているので留学生の起用法が2年ぶりの全国総体出場のカギを握る可能性もある。

県新人準々決勝で敗退した**沼津中央**は大黒柱・**サンブーアンドレ**がどこまで復調しているかに連覇の命運がかかっている。昨年のウィンターカップで精神的なもろさを露呈し、県新人準々決勝も欠場。どのあたりまで復調しているか分からないが、静岡県高校バスケットのスー

パースター、そして全国の留学生の中でもトップレベルの実力を誇るだけにメンタル面を強化してこの大会に臨み、もう一人の得点源・渡辺僚とともにチームを連覇、そして全国へと導いてくれることに期待する。

ダークホースとして中部地区予選準優勝、県新人ベスト8の静岡学園を推したい。エース・石部歩希が抜群のリーダーシップで引っ張っているチームだが、新入生として203cmの市川真人が加わりインサイドが格段に強化された。我々が長らく待ち望んだ日本人の2桁を超える選手、しかも静岡県出身（磐田市）選手の登場である。中部地区予選決勝では途中出場し、藤枝明誠のオマールとゴール下で互角以上にわたりあい、その潜在能力の高さを見せてくれた。順調に行けばブロック決勝で藤枝明誠との再戦が濃厚、オマールとのマッチアップに注目が集まる。まだチームに合流して2ヶ月弱だが温かい目で見守りながらも今後の成長と活躍に期待したい。

その他、新人大会同様東部3位、安定した成績を残し続ける加藤学園、中部3位、司令塔・小前利徳が持ち味の力強いドリブルでゴール下に切れ込み正確なジャンプシュートで得点を重ねる理想的な展開に持ち込みたい静岡、186cmのビッグマンセンター・山村吏玖を擁し大会のたびにじわりじわりと順位を上げてきた西部3位・浜松工業、エース・刑部克輝やU-18東海エンデバーにも参加した玉木健太郎など戦力も整っている浜松西などもまずは決勝リーグ進出を目指し、その先の東海総体そして全国総体出場までつなげていきたい。

上記に挙げた以外の注目選手としては中部4位、今回15年ぶりの県総体出場となる静岡商業の五十嵐貴大。185cmの長身を利してのインサイドプレーだけでなく、ドライブ、3P、そしてディフェンスを引き付けてパスをさばく器用なバスケットスタイルを持つまさしくオールラウンドプレーヤーである。プレーのムラをなくし、過去5回全国総体出場経験のある古豪・静岡商業に34年ぶりの県総体勝利をもたらして欲しい。そして同じく中部の静岡市立・東裕隼も注目選手に挙げたい。昨年、静岡県武道館でのウィンターカップ県予選準々決勝・飛龍戦で見せた3Pライン外側から飛び込んで来てのリバウンドはまさに野生的。華麗かつ堅実なプレーで何度もチームの窮地を救ってきた。どうしても優勝争いや全国出場争いばかりに目が行ってしまいがちだが、このような個性的な選手に注目して大会を観戦するのも面白いかもしれない。

【女子】

昨年はこの展望で「群雄割拠」と記したが、今年は県新人優勝、東海総体3位の浜松開誠館と県新人準優勝、東海総体4位の駿河総合の「2強」が他チームを大きく引き離しているように思われる。

浜松開誠館は戦力充実期。東海新人準決勝では全国優勝62回を誇る日本高校バスケット界の「女王」・桜花学園（愛知）相手にすさまじい死闘を繰り広げ、最後は6点差で敗れたが全員でチャンスを作り出し、ドライブでの合わせや速攻を多用し一時は2点差まで迫り日本一のチームを土俵際まで追い詰めた。その試合、エース・**石田悠月**は激しいマークをものともせず切れ味抜群のドライブとバスケットカウントを連発、合計42得点、チームの7割の得点を一人でたたき出した。月刊バスケットボール誌でも「今年度期待される全国の20人」に選ばれ、まさに今大会男女通じて一番の注目選手である。キャプテンとしても試合中常にチームメイトに気を配り、声かけを欠かさない選手でもある。シュートだけではなく相手ディフェンスをひきつけてパスをさばき得点のアシストをすることも出来るマルチプレイヤーである。唯一の心配は県新人決勝でも直面した自身のファウルトラブル。しかしながら接触を嫌がらず果敢に邁進する強気のプレーが一番の特色でもある。3月にはU-18日本代表エントリィキャンプにも参加し自信を得てきたはずである。見ている側に夢を与えるようなプレーを今大会でも披露してくれることを期待する。2年生の**鈴木侑**は粘り強いリバウンドや3Pを得意とし、3月にはU-16日本代表のカナダ遠征にも参加し経験値を積んできた。また先般、10月に行われるU-16アジア選手権の日本代表候補にも選ばれ、静岡県のみならず「日の丸」を背負う可能性を秘めた全国レベルの選手となった。その他、オフェンスではターンシュート、ディフェンスではブロックショットを得意とするセンターの**樋口栞帆**、石田、鈴木に次ぐ新たな得点源としてオフェンスリバウンドからチームにセカンドチャンスを見出してくれる**石牧葵**、そしてチームの精神的支柱・**奈須希咲**など注目選手も多い。激しいプレッシャーで相手を意気消沈させ攻撃を一気に封じ込めるディフェンスがチームの特徴。昨年度は県三冠（総体・ウィンター・新人）を達成、磐石の布陣でこの大会も制し大会連覇、そして2年連続4回目の全国総体出場を狙う。

対する**駿河総合**は県新人決勝、東海新人3位決定戦ともに浜松開誠館相手に惜しくも5点差で破れ悔しい思いをした。しかしながら最後の最後まで開誠館と互角以上にわたりあい底力を見せつけ、当然今大会でも優勝候補に挙げられ、中部地区予選は圧倒的な強さを見せて初優勝を飾った。エース・**長嶋アンソニー真弥**は内外角から積極的に1on1を仕掛け、スピードあふれるドライブとインサイドプレーが持ち味の選手。怪我に苦しんだ時期もあったが持ち前のガッツでチームを鼓舞し県制覇へと導いてくれるだろう。**西尾優香**は広い視野を持ち、インサイドに切れ込んでのジャンプシュートを得意とする。ゴール下をテリトリーとする**小山内パメラウーゴ**はオフェンスリバウンドの支配率が高く、176cmの**寺尾有里**とともに攻撃の中核を担っている。アウトサイドからは**野村栞由**や**永石華萌**の正確な3Pもあり、

非常にバランスの取れた理想的なチームである。基本に忠実かつ経験豊富な選手が揃っており、決勝リーグで再戦が予想される宿敵・浜松開誠館を倒して悲願の初優勝、そして2年ぶり3回目（前身の静岡南時代を含めると4回目）の全国総体出場に向けて突き進んで行く。

この2チームを追うのが第3シードの藤枝順心と第4シード・浜松聖星。藤枝順心は昨年のこの大会で創部初の決勝リーグ出場を果たした。最終的には県4位で東海総体は惜しくも逃したが貴重な経験を積んだ。今回中部地区大会準優勝で悲願の東海総体、そして全国総体まではっきりと視野に入ってきた。司令塔の杉本ちひろは昨年度県協会高校部の優秀選手にも選ばれ、県選抜選手として東海国体にも出場した実績を持つ。下級生には一昨年、藤枝順心中学時代に岩手全中へ出場した時のメンバーである柴田珠り亜、駒形伊恭、滝澤有希などを擁し大願成就の可能性もある。中部決勝では駿河総合に惜敗したが、今大会ではまずは2年連続の決勝リーグ進出を確実に果たし、上記2チームとの戦いにつなげていきたい。

西部地区予選準優勝の浜松聖星は今年度から共学化、そして校名も浜松海の星から変更しまさしく新たなスタートを切った。海の星としての最後の大会となった県新人では3位決定戦で常葉学園(当時)に破れ惜しくも4位、3年ぶりの東海新人出場を逃した。その悔しさをバネに今大会に臨む。チームの特長として足を使った平面的なバスケットを展開する。ずば抜けて大きい選手がいないため、様々な選手が交替でインサイドを務めている。攻撃のキーマンは共に勝負どころの3Pを得意とする飯島桜と松原明音。飯島は浜松聖星初代主将としてチームを支える。突破力抜群のドリブルで果敢にゴールを狙い、ディフェンスではインサイドのペイントエリアを確実に守っていく。2月にはU-18東海ブロックエンデバーにも参加して大いに刺激を受け、そのパフォーマンスをコートで発揮してくれるはずである。松原は得点感覚に優れたオールマイティの選手で、飯島とのコンビで得点を重ねながら試合の流れやチームのリズムを引き寄せていく。鈴木凜花は県新人でも見せたバックドアからカットインしてくる飯島に合わせるプレーでチームの士気を盛り上げる。まさに「浜松聖星高校元年」メモリアルイヤーの今年、まずは3年ぶりの決勝リーグ出場を第一目標とし、初の東海総体、全国総体出場を虎視眈々と狙う。

このほか、東部予選優勝の市立沼津、同準優勝の沼津中央、そして西部3位の浜松学院も侮れない。この3チームすべてが県新人ベスト8、四隅のチームにとっても決勝リーグ進出のためにはこれらのチームを倒していかなければならない。市立沼津は昨年のこの大会で見事準優勝、3年ぶりに出場した全国総体(広島)でも見事1回戦を突破した。昨年1年生(当時)ながら県選抜選手にも選ばれた遠藤真帆や主将兼司令塔、158cmと小柄ながらコートを駆けまわる飯田帆乃香など能力の高い選手を擁し2年連続の全国出場を狙う。浜松学院も172cmの長身・添田涼葉や中盤を守る伊藤百音、加茂七華など充実した戦力で初の決勝リーグ進出を目指す。2年連続ウインター県予選4強の沼津中央は、昨年のウインター県予選準決勝でも開誠館相手に20得点をたたき出し、3月の静岡県少年女子国内強化遠征(奈良)にも参加した文屋萌々華や大型センター・佐藤優樹などの主力を中心に7年ぶりの決勝リーグ出場を果たすことができるか注目したい。

また今大会・台風の目として**静岡西**を挙げたい。ご存知の通り、中部地区予選準々決勝で中部総体6連覇中だった常葉大常葉を1点差で下す大金星をあげた。準決勝では藤枝順心に惜敗したが、3位決定戦では島田を振り切り堂々の中部3位で県総体に出場する。司令塔の**花村歩美**は的確な判断能力を持ち、ドライブ、バス回しなど多彩な攻めで相手を幻惑させる。大怪我から復帰した**伊藤寧々**は島田戦で3P2本を含む16得点で完全復調を印象づけた。2年生の**森田七海**や**杉本弥月**も徐々にプレイングタイムが増えつつあり、現在最も勢いに乗っている静岡西は他チームにとって脅威の的に違いない。静岡西が地区予選同様旋風を巻き起こし、そしてブロック決勝での対戦が予想される浜松聖星を倒してエコパアリーナまでたどり着くことが出来るのか、まさに注目の的である。

そして忘れてはならないのが県総体優勝12回、全国総体出場21回を誇る**常葉大常葉**(旧常葉学園)。県新人3位で出場した東海新人は1回戦四日市四郷(三重)に辛勝、つづく桜花学園戦で敗れ上位進出を果たせなかった。万難を排して臨んだ中部地区予選では静岡西、東海大静岡翔洋に破れまさかの6位。選手たちも悔しさで涙を枯らすまで泣いたことであろう。攻守の軸である**野本陽香**は内外やどこからでも力強いシュートを打てるのが強み。ガードの**渡邊侑季**は前から相手に吸い付くようなプレスディフェンスが秀逸。その他にもドライブインしてのジャンプシュートを放つ**山地菜月**、アウトサイドから1on1を積極的に仕掛ける**北村音緒**、ジャンプシュートだけでなく外からも得点をはじき出せる**井上麗**など戦力は上位チームに勝るとも劣らない。地区予選終了から県総体まで約2週間の準備期間があり、その間に従来の「常葉スタイル」のバスケットに仕上げてくるに違いない。2回戦では駿河総合との「黄金カード」の実現が予想され、初日(27日)から目が離せない戦いが繰り広げられるだろう。

最後に22年ぶり県総体に出場する**榛原**についても触れておきたい。榛原はこの3月まで1、2年生計5人で活動していた。ウィンター県予選では3回戦まで勝ち上がりながら怪我で棄権、新人大会中部予選では県新人出場に王手をかけた静岡戦、清水東戦で連敗、悔やんでも悔やみきれない戦いが続いた。交代要員が全くいなかったためファウルを恐れるあまりインサイドでのボディーコンタクトが積極的に出来なくなっていたが、新年度6人の新入部員が入り選手層に厚みを増した。この中部予選、同じく最後の県切符を賭けた11位決定戦で清水南を破り悲願の県総体出場を勝ち取った。相手は第1シード・浜松開誠館、打ち破るにはあまりにも大きすぎる難敵だか全力でぶつかり悔いの残らない試合をしてもらいたい。